

<2025年5月3日>

WTIは\$4.73下落、原油価格はOPEC+の動きへと変動要因がシフトしたようですと前回述べましたが今週はまさにそのとおりでした。

サウジは「OPECプラス」の目標を上回る生産を続けるカザフスタンとイラクに憤慨し産油政策転換示唆との報道がありました。今後さらなる減産で原油市場を下支えする意向はないと同盟国や石油業界関係者に伝え増産や市場シェア拡大に動く可能性を示唆したとの報道です。4月12日週報でOPEC+の生産増加は、非順守に順守国が切れたことが最大の理由と思われるかと述べましたが本ロイター報はその見方が正しいと支持するものです。これはサウジの警告です。

米シェールへの警告と言うより、OPEC+内部のカザフやイラクにより強い警告です。さらに両国の増産に絡んでいるメジャーへの警告です。非在来型の米シェールは小回りが利くので価格変動に対する生産調整が柔軟にできますが、メジャーは現在の投資対象も在来型中心で価格低下は投資回収の遅れや失敗につながるよと安易な増産投資に警告しているように感じます。メジャーも増産が価格下落を招くことはわかっているが年がたつにつれ地球環境問題から開発が困難になることを予想し上流権益の現金化を加速しているのでしょう。

OPECプラスが、程を繰り上げて5月3日にオンライン会議が開催され約40万BDの6月増産を協議との報道もありました。これが実現すれば更なる原油価格下落は必至です。

トランプが自身のおかげでプーチンのウクライナ全土支配の野望を打ち砕いたかの発言がありました。現状の実効支配境界線拡大を自身が止めたとアピールし現状境界線を停戦ラインひいては国境と認める理屈にしたいことの現われと思われる。しかしそれは全く違います。

プーチンがウクライナ全土の領有を考えていたかは不明ですが、経済制裁が効きバイデン末期にはロシアにそんな余力は残っていませんでした。トランプに代わり経済制裁が緩くなりロシアは力を取り戻し北朝鮮の支援もありロシア領内からウクライナ軍を追い出しに(ほぼ)成功しました。トランプによりプーチンは有利な状況をつくることができたのです。

ガザ住民への兵糧攻め激化しています。水不足で取り合いも始まったようです。ネタニヤフは無論、イスラエルを抑止できる唯一の人物であるトランプも実質的に黙認しており両名は21世紀最大の人道違反者です。

為替は145円台まで戻しました。日銀の利上げ見送りと当分なさそうとの市場観測が要因です。米国では雇用統計が良好だったのでFRBは利下げ見送り可能性が高まりました。日米金利差縮小は当分なさそうで139円台でのドル預金を見送ったのは失敗のようです。トランプ暴言が頻発すれば円高再開もあり得ますが、日本経済さらに世界経済を考えるとそれは望んではいけないのだと思います。

<2025年5月10日>

前回週報でOPEC+の増産決定があれば原油価格のさらなる下落は必至と述べました。決定あり月曜日のアジア時間は急落しましたが米国シェールの生産減予想が広まると火曜日に大幅上昇しました。水曜日はFRB利下げ急がず報やフーシ派との停戦合意で下げ木金はトランプ関税関係が変動要因の主役に返り咲き市場の楽観視からwtiは週間で\$1.73上昇しました。

米国シェールの生産減は財政悪化のサウジアラビアにとって朗報ですが減産非順守国への警告が弱まるという面もあります。

ガザが非武装化され、機能可能なパレスチナ政権が誕生するまで、米国当局が率いる暫定政府がガザを監督することが米・イスラエルで話し合われたという報道がありました。期限はなく、現地の状況次第ということです。しかし期限が明確でなければ暫定とは言えず話し合われているのは米国が半永久的にガザを監督統治する話と感じます。イスラエルの極右閣僚は、ハマスとの戦争における勝利はガザ地区の「完全な破壊」西岸正式併合が現政権にとって「最も重要な課題の一つ」と無茶苦茶な発言をしています。ネタニヤフ首相は穏健右派の政党出身ですが政権を握りたいためのものであり本心は極右と同じと感じます。

トランプのウクライナ朝廷に関しバイデンがやっと口を開きました。トランプ政権がウクライナに領土割譲を迫っていることが明白になったからです。トランプの宥和政策への批判は以前からなされており英国のナチスドイツへの宥和政策が第二次世界大戦を引き起こしたという歴史的反省が背景にあることは言うまでもありません。トランプはこの歴史を知らないのではないかと思います。

自身のおかげでプーチンのウクライナ全土支配の野望を打ち砕いたかのトランプ発言がありました。しかしそれは全く違います。プーチンがウクライナ全土の領有を考えていたかは不明ですが、経済制裁が効きバイデン末期にはロシアに

そんな余力は残っていませんでした。トランプに代わり経済制裁が緩くなりロシアは力を取り戻し北朝鮮の支援もありロシア領内からウクライナ軍を追い出しに（ほぼ）成功しました。トランプによりプーチンは有利な状況をつくることのできたのです。

本発言は現状の実効支配境界線拡大を自身が止めたとアピールし現状境界線を停戦ラインひいては国境と認める理屈にしたいことの現われと思われまます。

<2025年5月17日>

ロシアがウクライナとの直接協議で東部4州とクリミアの割譲を要求との報道がありました。東部4州とクリミアの併合がプーチンの目的であることは明らかですが今回の各下による直接協議で主張したのには多少驚きました。米国からの反応は今のところなさそうでプーチンとトランプが事前に話し合っていた可能性があります。トランプの落としどころは現行の実効支配境界線を停戦ラインとすること（およびクリミアはロシアに正式に割譲）と週報で何度も述べていますが、今回のロシア主張はまだ東部州で支配していない地域も含めて割譲要求です。それを実効支配境界までロシアに譲歩させ停戦合意を実現し自賛するのがトランプの狙いでプーチンもそれに乗っているのではないと感じます。

ロシアとウクライナの直接交渉は過去最大の捕虜交換のみの合意に終わりました。ゼレンスキー大統領も欧州首脳もロシアを批判しています。直接協議言い出しっぺのロシアは格下の代表団であり、欧米からの批判をかわし時間稼ぎのための直接協議提案だったことが明白になりました。プーチンは時間稼ぎして東部4州の完全実効支配をねらっていると週報で述べてきましたが適切な推測だったと思います。

WTIは週間で\$上昇しました。今週の変動最大要因はイラン核交渉でした。火木金の変動は核交渉悲観楽観悲観で変動しました。核交渉は原油価格への影響という点でも米国とイランは駆け引きおよび口先介入している様相です。トランプは制裁強化と交渉順調を交互に述べており原油価格への影響の中立に保っています。多分計算づくではなく結果オーライでしょう。イランは原油価格が下がっては困るから制裁解除より輸出ができる程度の実質制裁緩和がベストなのではないかと感じています。この点はプーチンも同じでしょう。

人質を開放してもハマスを殲滅するとネタニヤフがほざきました。人質を解放するなどハマ스에言っているようなものです。人質を解放されたらガザを徹底的に破壊しパレスチナ人を追い出しづらくなるということでしょう。

トランプはガザの惨状を口にしていますが、それならイスラエルを止めろよと言いたくなります。カタールの国民の前で米国がガザを管理する案を自賛したのにはあきれました。サウジもカタールもイスラエルを国家として承認してなく2国家解決を指示している国です。トランプはディールと外交をごっちゃにしており、イスラエルもそれに困惑しているという記事もありました。

インドとパキスタンとの紛争は停戦合意しましたがインダス川水系の水資源問題は解決していません。インドが協定を一方的に無視しており史上最大の水争いウニ発展する可能性が出てきました。インドは慢性的な水不足に悩みつつも時として大洪水にみまわれており、パキスタンに流れていたインダス川の水を前々から横取りしたかったものと思われ今回の紛争はインドにとっていい契機だったのでしょうか。

<2025年5月24日>

ウクライナ問題では今週はウクライナと欧州の言動に関する報道が多かったです。米露は少なくロシア寄りの米国に対し欧宇が反撃開始と言ったところでしょうか。トランプがプーチンとの電話会談後にWHで弱気な発言会ったとの報道がありますがロシア説得に自信がないのではなくロシアと（ほぼ）合意した内容を欧宇に納得させる自信がないのでしょうか。以前にも述べましたがグリーンランドが欲しいと言うトランプには世界秩序の維持という感覚が皆無で欧宇の拒絶は意外だったのかもしれませんが。

ウクライナは米に代わる主導的役割期待との報道があり 米国制裁案はトランプ氏が承認するか不透明とのゼレンスキー発言がありました。

関税を理由に値上げするなどのトランプ失笑発言がありました。選挙戦中から関税に反対する経済学者を嘲笑していたトランプですが関税による値上げはけしからんし起きないと思っていたのかもしれませんが。経済についてハリスは0点でトランプはマイナスという評価を選挙中から鈴木は下しておりましたが正解だったようです。日鐵のUSスチール買収を承認したと日本のメディアは報じていますがまだわからないと感じます。トランプが南ア大統領と面談した時に使用した動画は別物元判明しました。認知症再発の感があります。

ネタニヤフは南部に安全地帯を確保し住民を移動させるとほざいていますが、何度も移動させ疲れさせてガザ退去に仕向けさせようとしているものと思われまます。

<2025年5月31日>

トランプがウクライナ全土を攻撃したプーチンに怒っていますが新たな制裁には消極的なようです。「彼の望みはウクライナの一部ではなく全土であり、その見方が正しかったことが証明されつつあるのかもしれない」と述べておりこれがキーフレーズです。以前述べた通り、トランプの筋書きは全土の野望を彼の力で一部に止めたという理由でクリミアと現行実効支配地をロシア管轄として停戦ラインを設けることでしょう。今回もその筋書きに沿った怒りの表現と感じます。ロシアによる宇全土攻撃とトランプの怒りは米露共謀かあるいは阿吽の呼吸かは不明ですが、実効支配ラインを停戦ラインとする米露の路線に沿ったものでしょう。

ガザでは停戦合意が近づくとイスラエル軍の攻撃は激しくなっていました。合意前にやるだけやっておこうということでしょうがロシアも同じなのではないでしょうか。

日鐵による US スチール買収の件ですが前回述べたようにまだ全貌が見えません、何が買収に該当するか記事ごとに曖昧ですが、鉄鋼労働者の前で述べた内容から合併も完全子会社化もトランプは否定しているように感じます。伝統的には共和党支持だが昨年大統領選挙では旗色を示さずトランプ勝利の要因となった全米鉄鋼労働組合が買収に反対しておりトランプは無視できないし、トランプは輝ける製造業の復活を掲げていることから買収は認めがたいだろうと感じてきました。ただ日鐵の投資は関税政策の結果と誇りたいトランプにとっては魅力的であり以前述べていたような過半数は渡さないという強い態度ではなくなったと思います。

ガザの利用可能な農地5%未満と国連が報告しています。ガザに人が住めなくするのがイスラエルの現政権の目的と一昨年12月から述べてきましたが、まさにそうなっています。米国がイスラエル寄りの停戦案を提示しましたがますますハマスにとっては受け入れがたいものになってきています。兵糧攻めで飢餓に追い込み恒久的停戦協議前に人質解放をできるだけ進めるという米国・イスラエルの戦術で多くの住民が死傷・飢餓に陥っています。